

研究論文 米国における高大接続プログラムの類型化の試み : フロリダ州を素材として

著者	野 雅暉, 江幡 知佳
雑誌名	筑波大学教育学系論集
巻	44
号	1
ページ	105-116
発行年	2019-10
URL	http://hdl.handle.net/2241/00159044

〈研究論文〉

米国における高大接続プログラムの類型化の試み

—— フロリダ州を素材として ——

高野雅暉
江幡知佳

米国における高大接続プログラムの類型化の試み

—— フロリダ州を素材として ——

高野 雅暉
江幡 知佳

1. はじめに

米国フロリダ州では、ハイスクール段階の生徒に大学レベルの科目を提供することにより、進学前に大学の単位を取得させるプログラム（以下、高大接続プログラム）が量的に拡大しており、かつその質は高く評価されている（Halic 2013, Fink et al. 2017）。フロリダ州における高大接続プログラムには、アドバンスト・プレースメント（Advanced Placement, 以下AP）、国際バカロレア・ディプロマプログラム（International Baccalaureate Diploma Program, 以下IB）、ならびに二重登録プログラム（Dual Enrollment, 以下DE）が含まれる。同州ではこれらのプログラムが、「早修メカニズム」（Acceleration Mechanism）という共通の制度的枠組みの中で州教育省の主導のもと展開されており、参加する生徒の適格要件（eligibility）や大学側による単位認定などに対して、一定の基準が設けられている。

米国の高大接続プログラムを扱った日本の先行研究では、AP、IB、DEの各プログラムを個別的对象とした分析に加えて、各プログラムを横断的に比較分析することにより、それらの差異を明確化する試みがなされてきた。後者の研究上では、AP、IB、DEの差異として、プログラムに参加する生徒の学力レベルや、各プログラムに対する大学機関別の評価が挙げられ、その差異を軸とした高大接続プログラムの類型化がなされてきた（小川・小野寺 2009, 高見・西川 2017）。

しかし、参加する生徒の学力レベル（インプッ

ト要因）や大学機関別の評価（アウトプット要因）といった、プログラムの外的要因の差異だけでは、各プログラムを類型化する特徴として不十分である。本稿は、外的要因の差異を引き起こすプログラム自体の内的な特徴こそが、高大接続プログラムの全体像を十分に理解するために必要であると考え、このような立場に立つ本稿の目的は、フロリダ州を事例として、各高大接続プログラムが選択されるに際しどのような観点から差別化がなされているのか、という点をプログラムの内的な特徴に着目して明らかにすることである。これにより、高大接続プログラムを類型化するための新しい軸を提示する。

州選定の理由は、他州に比べてフロリダ州では、プログラムの利用者^①によるAP、IB、DEの差別化が頻繁に行われているためである。上述のように高大接続プログラムを州主導で展開する同州では、特定のプログラムに偏らずAP、IB、DEのいずれもが高い普及率である（4-2を参照）。そのため、ほとんどのハイスクールで複数のプログラムが存在しており、利用者たちは何かしらの観点からプログラムを差別化したうえで自身が参加するプログラムを選択している。その際の彼／彼女の視点も踏まえることにより、より説得的な類型化の軸を生成できると考える。

なお、APとIBの特徴をより浮き彫りにする目的から、APの発展型であり、かつ「IBのコピー」ともいわれるAP Capstoneを比較対象に加える。

以下、本稿の構成である。続く第2節では、高大接続プログラムに関する先行研究の検討を

筑波大学大学院 人間総合科学研究科 教育基礎学専攻

行い、本稿の位置づけを示す。第3節では、政策レベルにおける各プログラムの差別化を検討するため、「早修メカニズム」の法規定を参照する。第4節では、提供機関レベルの分析として、各プログラムの設計を比較検討することから、差別化の観点を導出することを試みる。第5節では、実際の利用者レベルで、各プログラムがどのように差別化されるのか、インタビュー調査⁹⁾の結果をもとに考察する。最後に第6節では、まとめとして軸の生成を行い、日本への示唆、および今後の課題を提示する。

2. 先行研究の検討

高大接続プログラムを横断的に扱った先行研究として、小川・小野寺(2009)、小川(2012)、関内(2016)、高見・西川(2017)、西川(2018)が挙げられる。

まず、米国の高大接続制度をマクロに類型化した研究として関内(2016)がある。関内は、高大接続制度を、本来の学年より上位学年に早く在籍できる「完全早修」と、本来の学年に留まりながら上位学年の科目を履修できる「部分早修」とに分類したうえで、AP、IB、DEを後者に位置づけている。さらに、AP、IB、DEは、中等教育の延長として高等教育を行うことで、中等教育機関による高等教育の重層化を図るものとして、「重層型」の部分早修制度に分類される。しかし、この類型化は、米国の高大接続制度をマクロに把握できている一方で、本稿が対象としているAP、IB、DEに関しては、「重層型」部分早修というカテゴリーでまとめられているため、これらの差異を考察できていないという課題がある。

マクロな類型化ではなく各プログラムレベルの類型化を試みた研究に小川(2012)と西川(2018)がある。小川(2012)は、高大接続プログラムは、「国内－国外」の軸(プログラムが国内での進学を念頭においたものか、それとも国外への進学の際にも通用するか)、および「個別化－標準化」の軸(1高校対1大学という個別ケースのプログラムか、それとも対象を広げたより多くの高校と大学が参入するプログ

ラムか)から大別できると主張している。小川のこの分類は、自身の研究関心であるAPを中心としながらも、アジアにおける様々なプログラムをその軸の中で説明している点で、説得力のあるものになっている。さらに、小川の分類軸を踏襲した西川(2018)は、この類型を援用することにより米国におけるAP、IB、DEの差異を説明している。

さらに、各プログラムの差異を具体的に明らかにしている研究として、小川・小野寺(2009)と高見・西川(2017)がある。小川・小野寺(2009)は、ハワイ州におけるAP、IB、DEを対象として、大学側によるこれらの活用(単位認定)の違いを明らかにしている。具体的には、それらのプログラムは4年制大学と2年制大学、および公立と私立の間で、単位認定される科目数やその基準となる試験成績などで差がみられるという。また、高見・西川(2017)は、APとDEの相違点のひとつとして、参加者の学力レベルを挙げており、APは上位層向け、DEは平均層向けのプログラムであるとしている。

以上のように、これまでの先行研究では、高大接続プログラム全体における各プログラムの位置づけや相違点についての議論が蓄積してきた。しかしながら、これらの研究における各プログラムの記述は、先行研究や政策資料に主に基づいており、形式的な差異を示すにとどまっている。この課題に対して本稿は、各プログラムの差異について、提供機関レベルの分析にとどまらず、実際のプログラム利用者の選択意図からも考察を行い、高大接続プログラムの差別化において重視される内的な特徴にまで迫る点に特徴がある。

3. 高大接続プログラムの政策的な目的

本節では、早修メカニズムの目的を定めているフロリダ州法の教育規定(Florida Statutes, TITLE XLVIII, K-20 EDUCATION CODE)を参照することにより、政策レベルで高大接続プログラムに付与されている目的、および各プログラムの差別化について検討していく。

まず、早修メカニズムの導入経緯と概要につ

いて述べておく。フロリダ州が1979年に開始した早修メカニズムは、米国で初めて州レベルで展開された高大接続プログラムである。その背景には、1971年のカーネギー高等教育委員会による報告 (*Less Time, More Options*) がある (Hunt & Carrol, 2006)。同報告書は、大学の学位取得までにかかる時間と経済的コストを削減するために、大学の初年次に相当するレベルの科目をハイスクールの最終学年にて提供することを提案した (Carnegie Commission on Higher Education 1971)。この提案を背景として、米国の各州では、ハイスクール段階で大学レベルの科目を履修させる高大接続プログラムが興隆した。その一つが、フロリダ州の早修メカニズムである。早修メカニズムでは、高大接続プログラムの形態を単位認定方式で2つに分類している。第1に、ハイスクールの生徒が大学の科目を履修することで、大学から直接的に単位を獲得することを可能とするDEである。第2に、生徒がハイスクールで開講される大学レベルの科目を履修し、その最終試験の成績に対応して大学が単位認定する「試験による単位認定」(Credit by Examination) 型のプログラムである。ここにAP, IB, およびAP Capstoneは含まれる。

次に、早修メカニズムの目的である。目的に関する規定は、教育規定のチャプター1007「学校間接続とその教育機会」(Articulation and Access) における第2部・セクション27「接続された早修メカニズム」(Articulated acceleration mechanisms)にある。具体的には、以下のように目的が明記されている。

議会の意図は、公立の教育機関に通う生徒が多様な早修メカニズムを利用できるようになることである。これにより、①ハイスクール卒業から中等後教育における学位取得までに必要な時間を短縮すること、②生徒がアクセス可能なカリキュラムオプションを拡充すること、③特定の教科をさらに深める学習を可能にすることを目的としている。(Florida Statutes 1007. 27. (1), 番号は筆者による)

この条文からは、高大接続プログラムに対する州政府の期待として以下の3つがわかる。第1に、時間の節約である。これは、上述したカーネギー高等教育委員会の提案にあるように、大学レベルの科目履修をハイスクールに一部移行させることで、中等・高等教育の修了にかかる負担を軽減することを意図している。第2に、カリキュラムの拡充である。すなわち、生徒がもつ個別のニーズや興味関心を、大学レベルの科目の提供によって満たすことが意図されている。第3に、教科学習の深化である。ハイスクールの教科学習をさらに深めるものとして、大学レベルの専門教育を活用しようとする意図がうかがえる。

以上、高大接続プログラムにおける政策意図を見てきた。しかし、フロリダ州の法規定や政策文書においては、高大接続プログラム全体を包括する意図が示されるにとどまり、各プログラムが個別にどのような役割を担い差別化されるのかという点は詳細に述べられていない。

4. プログラムごとの特徴

ここで本節では、提供機関から発信されている情報をもとに、各プログラムの特徴を比較検討する。以下では、基礎的情報として各プログラムの提供主体について概説を行い、続いて、内的な特徴の差異を明らかにするための作業として、各プログラムのカリキュラム構成を比較する。最後に、各プログラムの内的な特徴の差異が、外的な特徴としての普及の度合いや通用性にどのような影響を与えているかを考察する。

4-1. 提供主体とカリキュラム構成

第1に、提供主体を確認する。APならびにAP Capstoneは、カレッジボード (College Board) という民間の非営利団体によって運営されている。カレッジボードは、APとAP Capstoneの教育内容や試験の統一を行う。

IBを提供しているのは、1968年にスイスに設立された財団法人国際バカロレア機構 (International Baccalaureate Organization : 以下、IB機構) である。IBを実施する学校は、

世界中に5,176校存在するが（2019年8月1日現在）、それらの学校は、IB機構が定める教育内容等に関する規則に則ることが求められる。

AP、AP Capstone、ならびにIBが、それらプログラムの提供と質の標準化を担う第三者機関を有するのに対して、DEは、基本的に大学とハイスクール学区による個別的な協定の下で行われる。ゆえに、その「提供主体」は大学やハイスクールである。

ただし、フロリダ州においては、すべての学区は大学と「DE接続協定」と呼ばれる協定を結ぶことが義務づけられている⁹⁾。「DE接続協定」の内容は州教育省によって枠づけられ、具体的には協定の項目、大学とハイスクールの権限と役割、および毎年¹⁰⁾の更新を州教育省に報告する義務などが明記されている¹⁰⁾。また、州教育省は、大学が提供するDE科目とハイスクール科目との整合性を統一した対応表（equivalency list）を作成している。この対応表では、提供される科目の分野、難易度、および認定される単位数などが定められており、フロリダ州内で実施されるDEは、この対応表にある科目に準じて開講、および単位認定される。

まとめると、AP、AP Capstone、IBに関しては、提供主体によって質の標準化がなされている。対してDEでは、大学とハイスクール学区との個別的な提携を基本としながらも、その提携の大枠を州教育省が規定していることから、州による緩やかな質の標準化がなされていると言える。

第2に、カリキュラム構成である。APに関しては、「(APとは) 学業成績が優秀な高校生に対して大学1-2年次レベルの科目を履修する機会を与え、その試験結果が良好であれば、大学の単位として認定される全米規模のプログラム」(小川 2009, 括弧内および下線は筆者による、以下同様) という説明にあるとおり、科目ごとの履修に基づくプログラムである。

同様に、DEに関しても、フロリダ州の説明では、「(DEとは) 適格要件を満たした生徒、あるいはホームスクーリングの子どもが、大学の科目 (postsecondary course) を履修するこ

とで、ハイスクール卒業および大学での修了書や学位へ向けた単位を獲得すること」(Florida Statutes 1007. 271. (1)) とあり、科目ごとの履修に基づくプログラムであることがわかる。

APとDEの差異は、大きく2つある。一つは、授業の開講場所である。APの場合、多くのハイスクールでは、通常のコースに加えてAPコースが設置され、その授業はカレッジボードから認定を受けたハイスクール教員（AP教員）によって開講される。対してDEは多くの場合、大学教員によって大学のキャンパス内で実施される¹¹⁾。もう一つの違いは、内容の多様さである。APの科目は、2019年8月現在、36科目あり、いずれもアカデミックな内容のものである。対してDEで提供される科目の内容は、アカデミックライティングなどの大学導入科目から、専門的なアカデミック科目、さらには職業教育科目まで多様である。

このように科目ごとの履修を前提とするAPとDEに対して、IBやAP Capstoneのカリキュラムは、それぞれが理念とする学習者を育成するための複数の科目からなる。すなわち、IBやAP Capstoneでは、教科学習に加えて論文の作成等を含む多岐に渡るカリキュラムが、それぞれIB機構とカレッジボードによってデザインされ、提供されている。

IBのカリキュラムは、以下6科目3要件から構成される。6科目とは、言語を計2科目、「個人と社会」から1科目、「理科」から1科目、「数学」から1科目、そして「芸術」から1科目を指す。3要件とは、カリキュラムの中核を成す必修要件としての「知の理論 (Theory of Knowledge)」, 「課題論文 (Extended Essay)」, 「創造性・活動・奉仕 (Creativity, Action, Service)」である (International Baccalaureate Organization 2014a)¹²⁾。生徒は、それら全てを履修し、一定以上の成績を取めることにより、世界中の多くの大学が入学資格や受験資格として認定しているIB「ディプロマ」を取得できる。

AP Capstoneは、内容重視である通常のAPとは異なり、研究スキル、分析能力、エビデンスに基づく主張、協同性、ライティングとプレ

ゼンテーションの能力を高めるコースである (College Board 2018)。具体的に、AP Capstoneのカリキュラムは、「4つ以上のAP科目」、「APセミナー」、「APリサーチ」から構成される。これら3つに参加し、AP科目に関してはAP試験でスコア3点以上(5点満点)、APリサーチでは研究論文の審査に合格することで⁹⁾、AP Capstoneの「ディプロマ」が授与される。APセミナーは、APリサーチの前段階で提供されるコースであり、学問あるいは実社会における問題を研究するための基礎を養うためのものとされる。生徒は、ここで研究の基礎を学んだ後、APリサーチの中で長期的な研究活動を行う。

以上、提供主体による各プログラムの設計を概観してきた。その結果、APとDEは、科目ごとの履修を基本とするプログラムであるのに対して、IBとAP Capstoneは、科目単位ではなく、探究活動や論文作成などの幅広い学習を含んだカリキュラムをもつプログラムである、という差異が導かれた。

次項では、これらの特徴を踏まえたうえで、各プログラムの普及度合いと通用性について整理していく。

4-2. 普及の度合いと通用性

第1に、フロリダ州における各プログラムの普及度合いを確認する。フロリダ州では、基本的に「5(エレメンタリースクール) — 3(ミドルスクール) — 4(ハイスクール)」制の教育制度がとられている。ハイスクールは960校あり、そのうちほぼ全てのハイスクールがAPとDEを、85校がIBを(International Baccalaureate Organization 2019a)、226校がAP Capstoneを(College Board 2019)提供している。すなわちフロリダ州では、一つのハイスクールの中で少なくともAPとDEが提供されており、場合によっては、それらに加えてIBやAP Capstoneが提供されることで、3種以上の高大接続プログラムが併存することになる。これらの中から、大学進学を希望する上級学年の生徒は、自らが履修を希望するプログラ

ムを選択している。

第2に、AP、IB、DE、AP Capstoneの修了がもつ通用性、すなわちアドミッションや単位認定の場面で、各大学が当該プログラムを認証するか否か、という点を見ていく。

各プログラムは、その修了が「州内—州外—国外」の大学で評価されるか、という点で異なる。プログラムの通用性が限定的なのはDEである。というのも、AP、IB、AP Capstoneが全米的、あるいは世界的に認証されているプログラムであるのに対して、DEは、基本的に、それが実施された州内においてのみ通用する¹⁰⁾からである。すなわち、フロリダ州のDEで得た単位は、フロリダ州内の大学やカレッジに進学した場合にのみ、大学やカレッジから単位を認定されるのが基本である。

他方、IBは、その名のとおり、国際的に通用する教育プログラムとして知られている¹¹⁾。ただし、フロリダ州では、IBを履修した生徒は、必ずしも国外の高等教育機関に進学するとは限らない。なぜなら、フロリダ州では、州内でIBを履修した生徒が、州内の大学等に進学した場合のインセンティブが制度的に保障されているからである。具体的には、州教育省の定める規則により、各大学が単位認定を行う必要のあるプログラムとしてIBが位置づけられている(Florida Department of Education 2018)。

IBと同様に、州を超えた通用性がある高大接続プログラムとしては、AP、ならびにAP Capstoneが挙げられる。APは、米国内に拠点があるカレッジボードにより質の標準化が図られており、全米的に実施されているためである。

まとめると、DEは、州内に進学する生徒を対象としており、他方、IBは、州内、州外、国外進学、いずれを目指す生徒からも選ばれる可能性がある。APとAP Capstoneも州内と州外において強い通用性をもつが、IBほど国際的な通用性はない。

以上のような普及度合いや通用性は、前項で述べたプログラムの性質を踏まえると、どのように解釈可能か。まず、提供主体と通用性の関連が指摘できる。すなわち、全米的な機関であ

るカレッジボードにより運営されるAPとAP Capstoneは、州をまたいだ全米的な通用性を持ち、国際的な教育市場を射程とする機関により運営されるIBは、国際的な通用性をもつ。そして、州教育省による統制がなされるDEの場合、その通用性も州内に留まる。このように、提供主体の活動範囲とそのプログラムがもつ通用性には関連がみられる。

次に、カリキュラムの性質と普及度合いの関連も指摘できる。個別の科目の履修に基づくAPとDEは、広く普及している。その理由は、プログラムを実施するハイスクールにとって、科目選択や教員の雇用が柔軟にできるためであると考えられる。一方で、IBとAP Capstoneは、複数の必修科目からなるカリキュラムをまるごと導入する必要があるため、導入のハードルが高く、普及は限定的となっている。

以上、本節では、提供機関レベルから各プログラムの特徴を比較検討してきた。結果として、提供主体の規模（州内一州外一国外）、およびカリキュラムの性質（科目単位の履修—カリキュラム全体での履修）が、普及の度合いや通用性といった外的な差異をもたらすことが示された。

では、実際の利用者レベルにおいて、どのような観点からプログラムが差別化されるのだろうか。次節では、プログラム利用者の選択意図を尋ねたインタビューデータを分析していく。

5. プログラム利用者による選択意図

高大接続プログラムの利用者たちは、各プログラムを差別化して選択する際の観点として、どのような特徴に着目しているのか。この点を解き明かすために、プログラムの利用者たちに対して「AP、IB、DE、AP Capstoneの差異と共通点はそれぞれ何だと思いますか」と質問した際の返答を分析していきたい。

結論を先取りすると、利用者の回答からは、生徒にかかる負担の大きさ、という観点からプログラムを差別化しているといえる。すなわち、質の厳格さ（rigor）を保証するために科目がパッケージ化され、履修する生徒に相応の努力を求めるプログラム（IBとAP Capstone）と、パッケー

ジ化されていない分、その他の活動に取り組む余裕が生まれるプログラム（APとDE）という差別化である。

まず前者についてである。「パッケージ化」というプログラムの特徴は、たとえば以下の発言からうかがえる。

IBとAPとDEとの違い？面白い質問ですね。私が思うに、IBはある種のパッケージ商品（package deal）みたいなものです。（2019年2月15日、学校区教育委員会の中等教育担当者）。

Capstoneクラスは、私が思うにIBのコピーです。IBの方がよりポピュラーなのですが、その理由は、IBはより包括的（holistic）なプログラムだからです。（2019年2月20日、ハイスクールのAP Capstone担当教員）。

上の学区教育委員会の中等教育担当者は、IBを差別化する特徴として、「パッケージ商品」という表現を用いている。すなわち、科目単位ではなく、カリキュラム全体を「パッケージ」として提供する点に、IBの特徴を見出している。また、下のハイスクール教員は、AP Capstoneを「IBのコピー」と表現しており、両者のカリキュラムを比較した上で、IBの方が「より包括的」であると述べている。すなわち、AP CapstoneとIBは、共に「包括性」という性質を持ち、故に両者は似たものとして比較されるのである。

また、「包括性」としばしば共起したのは、大学進学準備プログラムとしての「質の厳格さ」（rigor）という単語である。たとえば、上記で引用した学校区教育委員会の担当者は、続けて以下のように語る。

IBのカリキュラムはIB試験とIBディプロマを目指したとても厳格なものです。この国の親たちは、子どもの力量以上のものを彼／女に押し付けてしまうことがあります（2019年2月15日、学校区教育委員会の中等教育担

当者)。

先述の引用のすぐ後の発言であるため、ここでいう「とても厳格」という発言の根拠は、IBのカリキュラムがもつ「包括性」にあると読み取れる。さらにこの発言では、カリキュラムの包括性が質の高さにつながる反面、「子どもの力量」を超えた負担となる懸念が示されている。

このように、パッケージ化されたプログラムは、質の厳格さを保証する一方で、生徒の負担が懸念されている。

次に後者である。上記の懸念に対応する形で、パッケージ化されていない(科目単位での履修が可能な)APやDEのようなプログラムは、生徒にかかる負担の少なさが着目されている。

APやDEでは、それらのプログラムをハイスクールの通常授業、スポーツ、芸術などと両立するための時間の余裕が生じる。たとえば、自身の子どもがIBを途中で辞めてDEへシフトしたという保護者は、両プログラムを以下のように語っている。

うちの娘は、IBのせいでもっと多くの時間が奪われていると悩んでいました。というのも、IBコースはかなり負担のかかる環境ですし、人を選ぶプログラムですからね。だから、娘はDEへ移ることを決めました。彼女はとても創造的で芸術的な子です。そんなに

厳しいプログラムに在籍したままだと、余裕がなくなってしまいます(2019年2月14日、IBコースの生徒の保護者)。

以上より、利用者が高大接続プログラムを選択する際には、パッケージ化の有無とそれに伴う生徒の負担が、差別化の観点となっていることが示唆された。パッケージ化されたプログラムは、理想の学習者像へ向けた質の高いカリキュラムである点が評価されている。だが、欠点として、生徒がそのプログラム以外の活動に取り組むための余裕を無くしてしまうことが懸念されていた。パッケージ化がなされていないプログラムには、科目ごとの履修を基本とする故に、その他の活動に取り組むための時間の余裕が生まれるという利点がある。しかし、パッケージ化されたプログラムよりも質の厳格さは評価されない。

6. まとめと今後の課題

6-1. 本稿のまとめ

本稿の目的は、フロリダ州を事例として、各高大接続プログラムが提供・選択されるにあたりどのような視点から差別化がなされているのかを、プログラムの内的な特徴に着目して明らかにすることにより、高大接続プログラムの新しい類型軸を生成することであった。本稿の知見は表1にまとめられる。

表1 各高大接続プログラムの特徴

	AP	IB	DE	AP Capstone
カリキュラムの特徴	柔軟性	包括性	柔軟性	包括性
カリキュラムの構成	・科目ごとの履修 ・2019年4月現在、38科目	6科目3要件	・科目ごとの履修 ・学問的な内容から、アカデミックライティングといった基礎科目、さらには職業教育まで多様な内容	4つ以上のAP科目、APセミナー、APリサーチ
提供主体	カレッジボード	国際バカロレア機構	・大学とハイスクール ・州教育省による緩やかな質の標準化	カレッジボード
履修形態	・科目ごと ・ハイスクール内での履修	ハイスクール内での履修	・科目ごと ・大学のキャンパス内での履修が多い	ハイスクール内での履修
普及の度合い	・全米的普及 ・フロリダ州のほぼ全てのハイスクールで提供	・世界的普及 ・フロリダ州のハイスクール85校で提供	・全米的普及 ・フロリダ州のほぼ全てのハイスクールで提供	・全米的普及 ・フロリダ州のハイスクール226校で提供
通用性	州内、州外	州内、州外、国外	州内	州内、州外

出所：筆者作成

提供機関レベルの分析からは、各プログラムの提供主体の規模（州内—州外—国外）、およびカリキュラムの性質（科目単位の履修—カリキュラム全体での履修）という特徴が示された。利用者レベルの分析からは、パッケージ化の有無とそれに伴う生徒の負担が、差別化の観点となっていることが示唆された。

これらの特徴を重ね合わせることで、本稿は結論として、高大接続プログラムを類型化する際に「柔軟性—包括性」という軸が設定できると提唱したい。ここでいう「柔軟性」をもつプログラムとは、APやDEのように、生徒の興味・関心に対してピンポイントな科目のみを履修できるプログラムである。一方で、「包括性」をもつプログラムとは、IBやAP Capstoneのように、プログラムの理念となっている学習者像に従って修了要件を設定し、修了したものにはディプロマを授与するような、一つの「パッケージ化」されたプログラムを意味する。パッケージ化されたプログラムにおいて生徒は、科目単位での自由な履修ではなく、一定の体系性があるカリキュラム全体を履修する。そのカリキュラムでは、科目の内容というよりも、探究心や協働性や研究スキルなど包括的な資質能力の育成が中心となり、理想の学習者像へ向けた教育が行われる。

柔軟性をもつプログラムの利点は、①科目ごとの提供のため、実施する側の負担が少なく普及しやすい、②包括的なプログラムほど生徒に負担をかけないため、その他の活動との並立が可能、という2点である。包括性をもつプログラムの利点は、大学進学準備プログラムとしての質の「厳格さ」を保証できる点である。だが、そうした質の高さは、ハイスクールにおける通常のカリキュラムやその他の活動を犠牲とすることで成り立っていると指摘できる。

最後に、本稿で得られた結果をもとに、日本の高大接続プログラム研究への示唆を述べたい。冒頭で述べたように、日本の高大接続プログラム研究では、AP、IB、DEの横断的研究はなされているものの、それらの差異を説明する際に外的な特徴に依拠する傾向にあった。こうした

研究上の課題に対して本稿は、「包括性—柔軟性」という軸を提示した。これにより、米国の高大接続プログラムに関するより深い理解が可能になると考える。

加えて、この軸から米国における高大接続プログラム全体の潮流をみると、カレッジボードがAPを発展させてAP Capstoneを開発したように、科目単位のプログラムから包括的なプログラムへの転換が見て取れる。これは、DEにも当てはまる。本稿では対象としなかったが、DEをより「包括的」なものにしたプログラムである早期カレッジハイスクール（Early College High School）が近年拡大傾向にあるが、この傾向も「柔軟性から包括性へ」という潮流のひとつと解釈できる。このように、高大接続プログラムの大きな流れを説明可能にする点でも本稿の示した軸は、今後の分析視点となりうると考える。その際に重要なのは、ここまで述べてきたように、包括性による質の厳格さを特徴とする高大接続プログラムは、「大学への準備」以外の幅広い中等教育の経験を阻害する懸念があるということである。包括的プログラムの興隆、柔軟なプログラムの衰退が、高大接続、とりわけ中等教育段階の教育に対してどのような利害をもたらすのか、検証が求められよう。

6-2. 今後の課題

最後に、今後の課題を述べたい。本稿はIBとAP Capstoneを「包括的」なプログラムとして一括りに論じたが、IBとAP Capstoneの両方を提供しているハイスクール（フロリダ州には14校存在⁽¹⁰⁾）も存在している。それらのハイスクールでは、なぜ両方を導入しなければならなかったのか、あるいは、生徒はどのような理由からいずれかのプログラムを選択するか、といった点は、本稿の分析では十分に説明できていない。今後、IBとAP Capstoneとを両方提供しているハイスクールを含めて、改めてフロリダ州の高大接続プログラムの類型化について再考察することで、類型化軸の精緻化がなされると思われる。

注

- (1) ここでいう「利用者」とは、プログラムの利害関係者全体を意味しており、具体的には学校区教育委員会、ハイスクール、大学、生徒、保護者を指す。
- (2) プログラム利用者へのインタビューは、詳細面接法・焦点面接法（原 2019）の手法を用いて、「対象者がもっている意見や情報、意識などを知る」ことを試みた。AP、IB、DE、AP Capstoneのいずれかについて「なぜ当該プログラムを選択したのか」、「これらの違いについてどう認識しているか」という特定の質問を投げかけ、そこから得られる回答に合わせて柔軟にインタビューを行った。インタビューは、2019年2月13日から2月21日までの期間に、米国フロリダ州内で実施し、ハイスクールでは高大接続プログラム履修中の生徒（4名）、保護者（2名）、教職員（5名）に対して、学校区教育委員会では中等教育担当者（2名）に対して、大学では2年制大学教職員（3名）と4年制大学の教職員（2名）に対して、それぞれ行った。実際に各プログラムを履修する主体としての生徒のみならず、保護者や教職員等を分析対象に加える理由は、より多角的に各プログラムの差異を考察できると考えたからである。インタビューの内容は、全て録音、文字化した。
- (3) 「フロリダ・カレッジ・システムに属する全ての機関は、近隣の学校区、およびサービスを提供可能な地域に属する生徒のために、学校長らと協同のもとで包括的なDE接続協定を策定・実施する必要がある」（Florida Statutes, TITLE XLVIII, K-20 EDUCATION CODE, 1001.65, (21)）。
- (4) 州教育省が作成したDE接続協定のサンプルテンプレートによれば、以下の16項目が規定されている。すなわち、(1)本協定以外に結ばれている協定の全貌、(2)生徒・保護者に対するDEに関する情報周知の方法、(3)提供される科目内容、(4)生徒・保護者に対するDEへの参加手順の説明、(5)参加の適格認定の基準、(6)ハイスクールにおけるDE単位の位置づけ、(7)DEの授業で期待される水準の周知方法、(8)例

- 外的な適格認定の有無、(9)大学が設ける規定の有無、(10)学部組織に対する特別な規定やガイドラインの有無、(11)教員に関する規定やガイドラインの有無、(12)学校区の責任、(13)大学の責任、(14)参加に際しての経済的負担、(15)参加者の交通手段・費用に関する責任、(16)障がいを持つ生徒に関する規定の有無、である。
- (5) ただし近年では、こうした「オンキャンパス型」のDEに加え、派遣された大学教員や認定を受けたハイスクール教員によりハイスクール内で開講されるDE（オフキャンパス型）も広まりつつある。フロリダ州におけるオンキャンパス型とオフキャンパス型の割合を示すデータは定かではない。最新の全米調査（Marken et al. 2013）によると、DEを提供する公立の高等教育機関のうち、83%がオンキャンパス型で、64%がオフキャンパス型で実施している。このことから、オンキャンパス型が主流であることがうかがえる。ただし、2年制大学に限定してみたとき、オンキャンパス型が83%、オフキャンパス型が83%であり、2年制大学におけるDEではハイスクールでの開講も主流となっていることに留意されたい。
- (6) 3要件に関して、概略すると、「知の理論」とは、「『知識の本質』について考え、私たちが『知っている』と主張することを、いったいどのようにして知なのかを考察」するものであると説明される（International Baccalaureate Organization 2014b）。「課題論文」とは、関心のあるトピックに関する個人研究に取り組み、研究成果を4000語（日本語の場合は8000字）の論文にまとめる活動を指す（International Baccalaureate Organization 2017）。「創造性・活動・奉仕」とは、「創造性」（アイデアを探究しそれを広げることで、独創性や自分の解釈に基づいた作品やパフォーマンスを創造すること）、「活動」（健康的なライフスタイルに寄与する身体的な活動を実践すること）、ならびに「奉仕」（コミュニティの真のニーズに対応するために他者と共に活動を行い、かつ相互扶助の取り組みに従事すること）のそれぞれに、まんべんなく取り組む一連の活動を指す（International

- Baccalaureate Organization 2015)。
- (7) APリサーチでは、最終的な成果として5000語の研究論文を執筆し、カレッジボードによる論文審査に合格することで、APリサーチの修了証明書 (certificate) を獲得できる (College Board 2018)。
- (8) 付言すると、DEで獲得した単位は、州内においてすら単位認定されない場合もあり、そうした通用性の低さに対しては批判がなされている (Gewertz 2016)。なお、全州のDEに関する政策をまとめている Education Commission of the State (ECS)の調査によると、州内のすべての大学における単位認定を規定している州は、フロリダ州を含む25州のみである (Zinth 2016)。このように、DEの単位認定は基本的に州の政策に左右されるため、州をまたいだ通用性をもつことは難しい。
- (9) IB機構によると、「IBを実施する学校は、世界で約150カ国に所在し、毎年、IBを履修した生徒の成績が、約90カ国の高等教育機関に送付される」 (International Baccalaureate Organization 2019b)。
- (10) Deerfield Beach High School, Eastside High School, Hillsborough High School, Largo High School, Miramar High School, Palm Harbor University High School, Plantation High School, Seminole High School, Strawberry Crest High School, Suncoast Community High School, Venice High School, Windermere Preparatory School, Winter Park High School, Winter Springs High Schoolの14校。

引用文献

- 小川佳万・小野寺香 (2009) 「アメリカにおける高大接続プログラムの単位認定—ハワイ州の高等教育機関を対象として—」『東北大学大学院教育学研究科研究年報』57(2) : 321-342.
- 小川佳万 (2012) 「高大接続プログラムの類型」小川佳万編『東アジアの高大接続プログラム』広島大学高等教育開発センター, 1-16.
- 関内偉一郎 (2016) 「才能教育における高大接続に関する一考察—アメリカ合衆国の早修制度に焦点を当てて—」『教育学研究』83(4) : 436-447.
- 高見茂・西川潤 (2017) 「アメリカの公立大学におけるDual Enrollmentによる高大接続の展開とその意義—ニューヨーク州立大学のCollege Nowプログラムを事例として」『京都大学大学院教育学研究科紀要』(63) : 421-444.
- 西川潤 (2018) 「高大接続における早期履修制度の類型—Advanced Placementと類似制度—」『地域連携教育研究』3 : 108-114.
- 原清治 (2019) 「第2章 定性的研究のリサーチ・スキル」山内乾史編『若手研究者必携 比較教育学の研究スキル』東信堂, 17-27.
- Carnegie Commission on Higher Education (1971). *Less Time, More Options: Education beyond the High School*. McGraw-Hill Book Company. New York.
- College Board (2018). *AP Capstone Implementation Guide 2018-19*. (<https://apcentral.collegeboard.org/pdf/ap-capstone-implementation-guide-2018-19.pdf?course=ap-capstone-diploma-program-2019.4.22>)
- College Board (2019). *Current AP Capstone Schools*. (<https://apcentral.collegeboard.org/courses/ap-capstone/current-ap-capstone-schools-2019.4.22>.)
- Gewertz, C. (2016). Are Dual-Enrollment Programs Overpromising? *Education Week*. Vol. 36, Issue 03, 12-13.
- Fink, J., Jenkins, D., & Yanagiura, T. (2017). What happens to students who take community college “dual enrollment” courses in high school? Community College Research Center., Teachers College, Columbia University, 525 West 120th Street Box 174, New York, NY 10027.
- Florida Department of Education. (2018). *Articulation Coordinating Committee Credit-by Exam Equivalencies*.
- Halic, O. (2013). Postsecondary educational attainment of IB Diploma Programme candidates from Us high schools. *Geneva: International Baccalaureate Organization*, 1-15.
- International Baccalaureate Organization (2014a) 『DP : 原則から実践へ』(2009年英語原本発行)。

International Baccalaureate Organization (2014b)
『「知の理論」(TOK) 指導の手引き 2015年第1
回試験』(2013年英語原本発行).

International Baccalaureate Organization (2015)
『「創造性・活動・奉仕」(CAS) 指導の手引き
2017年卒業予定者から適用』(2015年英語原本
発行).

International Baccalaureate Organization (2017)
『「課題論文」(EE) 指導の手引き 2018年第1回
試験』(2015年英語原本発行)

International Baccalaureate Organization (2019a). Find
an IB World School. ([https://www.ibo.org/
programmes/find-an-ib-school/](https://www.ibo.org/programmes/find-an-ib-school/) 2019.4.22.)

International Baccalaureate Organization (2019b).
Recognition of IB programmes. [https://www. ibo.
org/university-admission/recognition-of-the-ib-
diploma-by-countries-and-universities/](https://www.ibo.org/university-admission/recognition-of-the-ib-diploma-by-countries-and-universities/) 2019.4.23.

Marken, S., Gray, L., and Lewis, L. (2013). *Dual
Enrollment Programs and Courses for High School
Students at Postsecondary Institutions: 2010–11
(NCES 2013-002)*. U.S. Department of Education.
Washington, DC: National Center for Education
Statistics.

Zinth, D. (2016). *Dual Enrollment: Public Postsecondary
Institutions Required to Accept Credits*. Education
Commission of the State. [http://ecs.force.com/
mbdata/MBQuestNB2?Rep=DE1514](http://ecs.force.com/mbdata/MBQuestNB2?Rep=DE1514). 2019.7.21.

〈付記〉

本稿は、JSPS 科研費18J20217の助成による研
究成果の一部である。

〈謝辞〉

米国フロリダ州における調査の実施に当たっ
ては、西フロリダ大学ジャパンセンター（調査
実施時）のDouglas Trelfa先生に大変お世話に
なった。関係各位に御礼申し上げる。

The Categorization of Acceleration Programs in High School: Focusing on Florida’s “Acceleration Mechanisms”

Masaki TAKANO

Chika EBATA

Acceleration programs aim to provide high school students with challenging college-preparation courses and allow them to earn college credits. They exist in two forms: “credits by examination programs” such as Advanced Placement (AP), AP Capstone and International Baccalaureate (IB) Diploma Program; and “college-based programs” such as Dual Enrollment (DE).

The purpose of this paper is to determine the characteristics to categorize these programs. To achieve this purpose, we compared the curriculum design of these programs and conducted interviews with stakeholders.

The main finding is that acceleration programs can be categorized in terms of curriculum characteristics, “Flexible” or “Comprehensive.”

Flexible acceleration programs, such as AP and DE enable students to take subjects according to their interests. The advantages of these kinds of programs are that students do not become overwhelmed by the coursework as is the case with comprehensive programs which makes it possible for both preparation for higher education and other activities. On the other hand, flexible programs aren’t regarded as being as rigorous as comprehensive programs.

Comprehensive acceleration programs, such as IB and AP capstone are “packaged curriculums,” which offer a basic principle, core subjects to achieve this principle, and the completion requirements to grant a diploma. In these programs, students must join in the curriculum unit rather than a single subject. These curriculums are designed to raise a student’s holistic competencies such as research skills, critical thinking, and reflection. The overall advantage of comprehensive acceleration programs is to ensure a rigorous standard to prepare students for higher education. On the other hand, students in these programs are forced to confront a demanding schedule and lost time in enhanced high school experiences.

From these findings, this paper argues that when acceleration programs are designed, not only the academic rigor, but also flexibility or comprehensiveness of a curriculum should be taken into account.